

P-Side
見た

湯葉ふおんじゅセット3,000円が1,980円

※数量限定開催なし



和スイーツには「香袋」のうれしい特典付き。
写真下の湯葉ふおんじゅセットは3,000円。

☎075-525-3005
MAP→P34/L-12

京都市東山区祇園町四条花見小路下ル
甲部歌舞練西入ル
ランチ11:30~17:00、ディナー17:00~23:00
定休日:無休



京都・祇園の
隠れ家モダンカフェ

らっか
祇園 **楽家**

舞妓はんや芸妓はんが行き交う、京都祇園花見小路の奥。『美容』『健康』『ダイエット』で注目の『豆乳』をふんだんに使った女性にも人気の看板メニュー『湯葉ふおんじゅ』は1人前1,300円。他に、京都の料理人が作り出す季節の食材を使ったおぼんざいの数々。一味違った大人な京都を味わえるとおきのお店。



「味」「ボリューム」「インパクト」の
三拍子揃った黒豚火鍋

むもん
三条室町 **無門**

黒を基調としたシックな店内には間接照明で浮かび上がる厳選された骨董品の数々。鍋には、鹿児島産黒豚と新鮮な野菜をふんだんに使って、特製ダレに一味を自分でたししていく。一味の辛さが食欲をそそり、体を芯から温める。冬オススメの独自のルートで仕入れている新鮮なふぐも一度食べてみては。



ふぐコース5品3,500円、7品5,500円。

☎075-257-1718
MAP→P30/I-10

京都市中京区三条室町上ル役行者町367
11:30~14:00(ラストオーダー13:30)
17:00~23:00(ラストオーダー22:30)
定休日:日曜、祝日



グループの方焼酎ボトル1本サービス!

P-Side
見た



身体の芯から暖まろう! 寒い季節はやっぱりコレ! あったか お鍋特集

P-Side
見た

グラスワインサービス



「味がさね」では、あの天下一品のラーメンも食べられる。写真下はてっちり鍋会席。

☎075-256-1777
MAP→P24/L-10

京都市中京区先斗町通三条下る若松町141-4
12:00~15:00(ラストオーダー14:00)
17:00~23:00(ラストオーダー22:00)
定休日:月曜日



築150年の歴史あるお茶屋さんの佇まいをそのままに、和・中折衷の創作料理を提供する「味がさね」。

冬の凛とした鴨川を眺めながら
てっちりでほっこり

あじ
先斗町 **和中創作料理 味がさね**

鴨川を眺めながらいただくてっちり鍋は、厳選された京野菜と下ノ関産のフグを京都風にいただく。鍋で体を暖めながら、スタッフの暖かい気配りで心もあったかになる。歴史ある町並みで肩肘張らずに楽しめるお店。てっちり鍋会席は5,500円、てっちり鍋小会席は4,800円から。

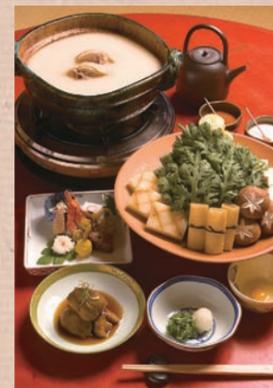


登録有形文化財である建物。のれんをくぐると昔ながらの石畳が奥まで続く。趣きのある室内は全て座敷。

創業天明8年
220年変わらぬ味

とりやさ
四条木屋町 **鳥彌三**

名物『水炊き』を目の前にして、まず驚くのはその白いスープ。鳥ガラだけで三日間、強火で炊き、混ぜものを一切使用しない純粋な鳥のスープは見た目よりあっさりしたコクのある味。坂本龍馬が足しげく通った逸話も。京都の歴史を感じながら、ゆったりとした時間を過ごしてみては。水炊き12,600円(税・サ込)。



お昼の弁当 鴨川御膳4,347円(税・サ込)
是非一度味わってみては。

☎075-351-0555 (できれば予約)
MAP→P24/L-11

京都市下京区木屋町四条下ル東側
11:30~22:00(ラストオーダー21:00)
定休日:不定休(要電話確認)





サラリーマン向けのお店が多い地域で女の子同士やカップルでたのしめるお店だ。

産地から新鮮な魚介を使った 豆乳鍋に舌も心もまったり

あやのこうじ 四条烏丸 **それから綾小路**

食材は市場から旬の新鮮な魚介類を厳選し、ドリンクは季節限定の日本酒や焼酎がならぶ。食・酒に対する厳しい姿勢とは反対に店内は、あたたかな大人の隠れ家。京都の湯葉・水菜・白菜など野菜を中心に豆乳でいただく「たらと白子の京風子立(こたて)鍋」2人前1,100円は、体にやさしい味付け。



旬を目で舌で味わえる日替わり創作料理。写真は里手のあられ揚げ和風あんかけ630円。鍋の具材はその日仕入れた新鮮な食材が使われる。

☎075-352-9088

MAP→P30/L-12

京都市下京区東洞院綾小路東入
扇酒屋町274-1 今井ビルB1
18:00~24:00
定休日:不定休

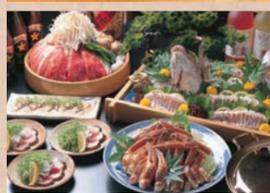


店内は相撲一色のお店。全国発送の宅配ちゃんこは1セット(3~4人前)で5,500円とかなりのお得。

京都の町家で 絶品ちゃんこ鍋

てんさん 祇園 **天山**

遠方からの予約も多い人気店で味に魅せられたお相撲さんも食べに来る。天山自慢の秘伝のスープに近江牛、豚肉、鶏肉が全て入って、野菜もたっぷり食べられるヘルシーさもうれしい。量敷きの広々とした店内は、宴会やパーティーにも最適。大関ちゃんこは3,465円。お昼は予約のみ営業。



写真は親方かにコース9,240円(飲み放題付き)。

☎075-561-7378

MAP→P34/L-12

京都市東山区大和大路四条下
3丁目寶田町82
月~土11:30~14:00、
17:00~23:00(LO22:30)
祝 日17:00~22:00(LO21:30)
定休日:無休(10月~3月)



飲食料金5%OFF
P-Side 見た



淡路島産玉葱の「黒焼き」800円。ジャガイモのようなホクホク感がたまらない。

☎075-256-8808

MAP→P24/L-10

京都市中京区先斗町通四条上
下橋町201-4
11:30~15:00(ラストオーダー14:00)
17:30~23:00(ラストオーダー22:00)
定休日:無休



先斗町で目をひくレトロアートな外観と季節の野菜が盛りだくさんのカウンターがお出迎え。

冬の野菜は「葱」 「葱」といえば平吉

ねぎやへいきち 先斗町 **葱屋平吉**

体を芯から暖めてくれる野菜「葱」を主役にした鍋を展開する「葱屋平吉」。冬だけでなく、春夏秋冬の旬の食材を使った鍋を提供するというユニークさはここだけのオリジナル。人気の品は看板メニューの葱鍋牛すきやき(並)2,880円。その他、全国から厳選された食材をそのまま贅沢に味わう「黒焼き」シリーズが人気。



上の写真はうどんすきコース。先付、造り、棒寿司、うどんすき鍋、特製烏ミンチ、袖シャベットが付いたお得なコース4,200円。下の写真は血鉢料理。大皿に十数種類の素材で盛り込まれた豪快な料理。うどんすき鍋とのセットでお一人4,730円と驚きの価格。

☎075-231-2366

MAP→P24/L-9

京都市中京区木屋町通御池上ル東側
11:30~22:30
定休日:不定休



落ち着いた古都の様子に和やかな座敷で、会席料理や鍋ものなど、ゆかしき京の味をじっくり堪能。

情緒ある上木屋町で リーズナブルに京の味を堪能

ぼう きやまちてん 御池木屋町 **めん坊 木屋町店**

お鍋は新鮮な魚介類と京野菜がふんだんに盛り込まれ、それをじっくり堪能した後でめん坊自慢の本格讃岐手打ちうどんの登場。うどんすき鍋(お造り付)がお一人3,300円からと、とてもリーズナブルなメニューは友達同士でも気軽に立ち寄れるお店。その他会席料理(5,250円より)、とらふく鍋、陶板焼きのコースなどもある。

京のぽかぽか

湯 つくり 散策 嵐山温泉



嵐山・嵯峨野散策のお宿 雅の湯でほっこり

時の流れに古えの風匂う嵐山・嵯峨野の地は、遠く平安の昔の大宮人達の別荘地でもあり、平家物語や源氏物語の舞台になりました。来年には「源氏物語」が書かれてから千年紀を迎え、ここ嵯峨野の地が物語に出てくるのは「賢木の巻」の野々宮神社と「松風の巻」に登場する大覚寺。今なお当時の風情が感じられ、静寂の地に佇む神社・仏閣には長い歴史の中にそれぞれの物語があります。

そんな歴史の足跡を訪ねながら、赤い毛氈の敷かれた床机が置いてある茶店に立寄り、お抹茶と京菓子をいただいたり、京小物が並ぶ店を廻ってみたいと、ゆっくり嵯峨野を散策すれば、ほっとした気分と心地よさにつまれます。京都らしいお店を横目にそぞろ歩けばやがて渡月橋が見えてきます。木製の欄干に古都の情緒があり、周辺に点在する嵐山の宿はそれぞれに歴史を感じさせるたたずまいです。

そんな風光明媚な嵐山・嵯峨野にある「嵐山温泉」は、ここでしか味わえない雅な雰囲気があります。名勝嵐山を背景に、匠の技に心を添えた京料理を堪能し、やさしい湯で日々の疲れを癒し、くつろぎの時間を過ごす…。日常からかけ離れた空間がここにあります。

嵐山・嵯峨野 散策マップ



常寂光寺
『百人一首』で知られる小倉山の中腹にある常寂光寺は、日蓮宗の寺。もとは藤原定家の山荘、時雨亭があったところと伝えられ、本園寺から移築された仁王門は南北朝時代の藁葺きの門。風におおわれた石段を上ると、伏見城の客殿を移築した本堂、その背後に均整のとれた美しい重文の多宝塔が建ち、見所満載。

大覚寺
王朝風の伽藍が優美な大覚寺は、皇室ゆかりの格式高い真言宗の寺。客殿と宸殿は重文。宸殿は後水尾上皇が寄進した宮中の建物で、狩野山楽筆の豪華な障壁画が見もの。境内東の大沢池は嵯峨離宮の名残で、嵯峨天皇が中国の洞庭湖に思いを馳せて造ったとされ、かつては船を浮かべ、詩歌管弦の宴が繰り広げられたと伝わる。

野宮神社
祭神は、天照大神(あまてらすおおみかみ)。簡素なたずまいのなかに、黒木の鳥居、柴を束ねた小柴垣、小さな社が見える。かつて伊勢神宮へ下向するに先立って、斎宮に選ばれた皇女が潔斎のためにこもったところと言い伝えられている。『源氏物語』や謡曲『野宮』でも知られる。現在は縁結びの神として女性に人気。

天龍寺
臨済宗天龍寺派の大本山。有名な天龍寺庭園は夢窓疎石の作庭で、わが国初の史跡特別名勝に指定された。曹源池を中心とした亀山と嵐山を望む借景式庭園で、優美な大和絵風の州浜と宋元画を思わせる池奥の景色とが融合している。境内には、端正な禅寺様式の建物と並び、平成6年12月には世界文化遺産に登録された。



渡月亭 (とげつてい)
嵯峨野散策の宿 伝統の京会席と古都千年・雅の湯
創業明治30年、渡月橋南詰に位置し嵯峨野散策に最適。山手の館は「秀山閣」、川辺の館は「碧川閣」。琴の音色とお香のかおりがお出迎え。料理は伝統の京会席で豆腐と湯葉の館「松風閣」は女性好みの献立。



日帰り入浴OK 昼食含む

京都市西京区嵐山中尾下町54-4
☎075-871-1310
<http://www.togetsutei.co.jp>

嵐楼閣 (らんろうかく)
たおやかに大宮人の気分ひたる料理旅館
紅葉狩りに疲れた脚をいやす足湯は、阪急嵐山駅から徒歩3分。四季を彩る紅葉と心尽くしのおもてなしでお迎え。ご入浴は食事プラス800円で、旬の食材を用いた繊細で独創的な京料理を堪能できる。



日帰り入浴OK 昼食含む

京都市西京区嵐山中尾下町54番地2
☎075-881-1193
<http://www.kyoto-hanatsubaki.co.jp/ranroukaku/index.html>

花筏 (はないかだ)
旬を瞬でとらえる四季彩の雅味
湯けむりの向こうに渡月橋、清流きらめく大堰川、遠くにたたずむ愛宕山、嵐山唯一の眺望を誇る展望温泉露天風呂で日頃の喧騒を忘れて、湯ったり、のんびり過ごしてみたい。



日帰り入浴OK 昼食含む

京都市西京区嵐山渡月橋南詰
☎075-861-0228
<http://www.hanaikada.co.jp>

嵐山辨慶 (あらしやまべんけい)
名勝嵐山が箸休め 大堰川の川風を聴く嵐山辨慶
墨絵の凛とした嵐山の冬景色に心をときほくす湯の香。地元京野菜を使用し、趣向をこらした料理。名勝露天風呂で日頃の喧騒を忘れて、癒しのひとときを過ごせる。



日帰り入浴OK 昼食含む

京都市右京区嵯峨天竜寺芒ノ馬場町34
☎075-872-3355
<http://www.benkei.biz>

ホテル嵐亭 (らんてい)
美しい自然に囲まれ 美味しい料理に舌鼓
明治初期建造の建物や歴史を感じさせる門、嵐山を対岸に保津川を望む美しい庭園など、嵐亭には一見に値する景色が数多い。露天風呂以上の景色を追求した温泉浴場と美味しい京料理を心ゆくまで楽しめる。



健康増進など

疲労回復、痔病、冷え症、慢性消化器病、うちみ、くじき、

関節痛、五十肩、神経痛、筋肉痛、

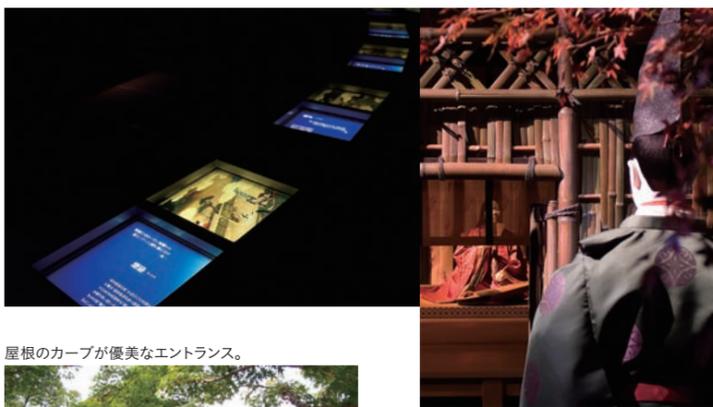
京都市右京区嵯峨天竜寺芒ノ馬場町12
☎075-371-1119
<http://www.rantei.com>



六条院は太政大臣となり人生の絶頂にあった35歳の光源氏が造営した理想的な寝殿造りの大邸宅。春夏秋冬の季節に合わせた庭と御殿をもつ4つの町からなり、百分の一の大きさを細部にわたって精巧に復元されています。



(上)六条院で華やかに繰り広げられた舞楽の様子。「胡蝶」と美しい鳥「迦陵頻」の衣装は現在最古の舞楽装束や絵巻を、女童は平等院の雲中菩薩供養の顔を参考に製作されています。
(下)平安時代の高貴な女人の居間。屏風、几帳、畳、棚、箱等々さまざまな調度品の素材、色、文様などは注文主が細かく指図しました。左の屏風などの「室礼」は有職故実書『類聚雑要抄』に基づいています。



屋根のカーブが優美なエントランス。



場面は秋九月有明の月。貴族の路装、狩衣(かりぎぬ)姿で烏帽子(えぼし)をかぶった薫君が蝙蝠扇(かわほりおうぎ、紙を張ったおうぎ)で顔を隠すようにして覗き込んでいます。秋の部屋では「宇治十帖」を「源氏絵巻帖」の立体映像で紹介しています(左上)。



源氏物語に関するものならマンガから専門書まで幅広くそろえる図書室。

企画展示のご案内
「源氏物語の美」(前期)
11月21日(水)～平成20年1月14日(月)

今も昔も物作りたちの創作意欲を掻き立てて止まない源氏物語。そんな極上の文学作品である源氏物語をモチーフとした美術工芸品の数々を展示します。



末広がり八角瓜形三段重「藤袴」



宇治市宇治東内45-26
TEL.0774-39-9300
開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
観覧料 大人500円、小・中学生250円

風流な散策道「さわらびの道」にたずむ宇治市源氏物語ミュージアムは、エントランスの周辺に池を巡らせ、紅葉のトンネルをそぞろ歩くアプローチから平安王朝の世界へと誘い込まれる心地です。館内は大きく、展示ゾーンと無料の情報ゾーンに分かれ、展示ゾーンでは折々に合わせて展開される企画展示室と、物語の雰囲気味わう常設展示室があります。

三部構成の常設展示室ではまず「春の部屋」へ。桜の木のもと、豪華な牛車がお出迎え。御簾の中は高貴なお姫様の気配。『胡蝶』の巻の女童の舞や女人の居間の調度品も等身大で展示され、また光源氏が輝かしい日々を送った六条院のミニチュアも目を見張ります。背後には三二面のマルチスクリーンが十分間の絵巻ビジョンで、物語に登場する姫君を連想させる美しい

花々、怨霊を思わせるおどろおどろしい場面など、光源氏の華やかな生涯を迫力抜群に描きます。

華やかな桜の部屋を後に、平安京から宇治、光源氏の時代から息子や孫の時代へ。二つの世界の境「結果」を象徴する光の通路を渡り、「秋の部屋」では一変して紅葉の世界。「宇治十帖」の始まり「橋姫」の巻で薫君が月の夜、初めて八の宮邸の宇治の姫君を垣間見るシーンが展示されています。

そして最後に映像展示室では「源氏物語」の最後のヒロイン浮舟の物語が約20分の映像で紹介されます。二人の貴公子に愛され、入水を図りながらも助けられ、出家し一人で生きる道を選ぶ女性の生き様やさまざまな人間模様、源氏物語が時空を超えて愛され続ける由縁をしみじみと感じることができるよう。

千年の時空を超えて
源氏物語の世界を体験

「あなかしこ、このわたりに若紫やさぶらふ」
(失礼ですが、このあたりに若紫はおいでですか)。
紫式部は寛弘五年(一〇〇八)11月1日の日記に当代随一の文化人、藤原公任(きんとう)から「冗談ほく、若紫」と声をかけられたと記しています。これが世界最古の長編小説といわれる「源氏物語」に関する史上初の記録で、平成20年(二〇〇八)にちょうど千年を迎え、「源氏物語千年紀」として国内外で様々な記念事業がすすめられています。

平等院鳳凰堂や宇治上神社本殿など平安時代のままの姿を今にとどめる文化遺産をもつ宇治は、源氏物語の後半、第四十五帖「橋姫」から五十四帖「夢浮橋」までの舞台となりました。風光明媚な宇治川周辺には「宇治十帖」と呼ばれるゆかりの古跡が伝わります。そして「源氏物語のまち」を象徴する宇治市源氏物語ミュージアム：一つの文学作品をテーマにした博物館は世界においても例がなく貴重なもの。この千年紀にあなただも王朝絵巻の世界を体験してみませんか。

源氏物語
ミュージアム

